

第 64 回長野県図書館大会 実施報告書

平成 27 年（2015 年）2 月 18 日



開催日 平成 26 年 11 月 8 日（土曜日）

開催地 茅野市

会場 （1）開会式、講演会会場

茅野市民館 （茅野市塚原一丁目 1 番 1 号）

（2）分科会会場

茅野市立永明中学校 （茅野市塚原一丁目 10 番 6 号）

ちの地区コミュニティセンター（茅野市塚原一丁目 9 番 16 号）

茅野市民館マルチホール（茅野市塚原一丁目 1 番 1 号）

目次

1	図書館大会の概要（開催事項）	・・・ P 2
2	図書館大会の参加者等人数一覧表	・・・ P 6
3	図書館大会の反省及び次年度への引継事項	・・・ P 7
4	図書館大会分科会の記録	・・・ P 9
5	図書館大会の決算書	・・・別紙

1 大会テーマ

学びや暮らしの中に生きる図書館の望ましいあり方を探る

～ つなぐ、つながる学習・情報拠点として、生きる力を支えるこれからの図書館
と読書活動を目指して ～

2 趣 旨

これまでの図書館大会の実践と実績を踏まえ、一人ひとりの生活をより豊かで充実したものにするを目的として、学校教育や生涯学習などの拠点となる図書館の役割やあり方を探る大会にしましょう。

- (1) 子どもたちや地域の人々の自立を支える情報を結び、生活の課題解決のために、活用される図書館であるため読書環境の充実にむけた取り組みについて考えましょう。
- (2) 新しい学習指導要領では、「生きる力」を育むことを目指し、「言語活動」を充実することとされています。地域の一員であり、次代を担う子どもたちの言語活動・読書活動を充実するための、学校図書館の利活用について考えましょう。
- (3) 学校図書館の持つ意義・役割を再認識し、学校図書館担当職員(学校司書)の配置と資質能力の向上を図るためにはどうしたらよいか考えましょう。
- (4) 生涯学習の拠点、学びの拠り所として、地域住民のニーズに応じることができる図書館のあり方考えるとともに、情報発信の拠点として、地域の自立と活性化につながる図書館のあり方について考えましょう。
- (5) 公共図書館と学校図書館の連携や、知的資産の蓄積や地域の情報拠点としての高等学校図書館や大学図書館の役割について考えましょう。
- (6) ボランティア活動等の促進のため、行政や地域社会との連携支援について考えましょう。

3 期 日

平成26年11月8日(土) 午前10時から午後3時40分まで

(受付開始：午前9時30分から)

4 会 場

- (1) 開会式、講演会会場

茅野市民館 (茅野市塚原一丁目1番1号 電話 0266-82-8222)

- (2) 分科会会場

茅野市立永明中学校 (茅野市塚原一丁目10番6号 電話 0266-72-2364)

ちの地区コミュニティセンター (茅野市塚原一丁目9番16号 電話 0266-72-4959)

茅野市民館マルチホール (茅野市塚原一丁目1番1号 電話 0266-82-8222)

※茅野市家庭教育センターから会場変更となりました。

5 主 催

長野県教育委員会 長野県図書館協会 長野県高等学校図書館協議会

長野県市町村教育委員会連絡協議会 (公社)信濃教育会 茅野市教育委員会 諏訪市教育委員会 岡谷市教育委員会 下諏訪町教育委員会 富士見町教育委員会 原村教育委員会 (公社)諏訪教育会 長野県図書館協会諏訪支部

6 後 援

長野県PTA連合会 長野県連合婦人会 長野県小学校長会 長野県中学校長会

長野県高等学校長会 長野県保育園連盟 長野県公民館運営協議会

長野県老人クラブ連合会

長野県社会福祉協議会 長野県国公立幼稚園長会 (一社)長野県私立幼稚園協会
茅野市PTA連合会 茅野市保護者会連合会 茅野市図書館協議会 茅野市保育協会

7 参加者

公共図書館 公民館図書室 小学校・中学校・高等学校の図書館
大学・短期大学等附属図書館 議会・病院・団体等の図書館 幼稚園・保育園
その他読書施設に勤務する者 教育委員会 図書館協議会の関係者 議会議員
保護者会・婦人会・婦人文庫・高齢者クラブ・ボランティア・NPO等の方々や
企業関係者など、どなたでも参加できます。

8 日程

9:30	10:00	10:30	10:40	12:10	13:20	15:40
受付	開会式	休憩	講演会	昼食・移動 (分科会会場)	分科会	
茅野市民館				※永明中学校ほか		

※分科会会場は茅野市民館から、徒歩で約5分です

9 基調講演

演 題 「本と言葉」

講 師 金田一 秀穂 (きんだいち ひでほ) 氏



1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語を教える。現在、杏林大学教授で中国語・日本語学科・日本語教育コース。

研究テーマは分野 意味論、言語行動、文法など。現在は認知意味論に関心がある。担当科目は学部では、日本語学概論 ゼミナール・卒業論文担当科目。大学院では、言語文化相関論 言語と文化交流 日本語教授法論演習。

10 参加申し込み要領

(1) 参加費 (大会資料代を含む。)

2,000円 (ただし、一般市民、ボランティアで活動されている方々は1,000円)

※申込後の参加費は、原則としてお返しできません。(大会資料はお届けします。)

参加費の免除は、助言者と発表者のみとさせていただきます。

(2) 参加申し込みについて

別紙様式の参加申込書に、以下の区分で申し込み願います。

参加区分	申し込み先	締め切り	備考
長野県小・中学校参加者	図書館協会小中学校 図書館部会の各支部へ	9月5日(金)	※申込みの際は、参加費を添えてお申し込みください。
上記以外の参加者	大会事務局	9月10日(水)	

<小中学校部会の各支部のみなさま>

分科会の参加者を調整のうえ別紙参加申込書を添えて、支部単位で取りまとめのうえ、9月10日(水)までに、大会事務局へお申し込みください。

参加者の調整をしたときは、各支部において、事前に本人へ分科会名を知らせておいてください。※ 参加申込書が不足したときは、コピーしてお使いください。

(3) 昼食について

昼食は各自持参してください。

会場の近くに昼食を購入する場所がありますが、必要な方にはお弁当を斡旋しますので参加申込書の該当箇所に○印をしてください。

なお、茅野市民館マルチホール・ロビーでの飲食はできません。茅野市民館2階アトリエ又は分科会会場等で適宜お願いします。

※当日は茅野駅前にて物産等販売のある「そば祭り」を開催予定ですので、ご利用ください。

(4) 参加費送金方法について

参加費の送金は、大会事務局まで現金書留、郵便為替又は銀行振り込みでお願いします。振込手数料は個人でご負担願います。領収書は銀行の受取りで代えさせていただきます。銀行振り込みの場合の参加申込書は、郵送かFAXでお願いします。

振込先：八十二銀行 茅野支店 普通口座 995653 口座名義 長野県図書館大会実行委員会事務局

11 諸連絡

(1) 分科会会場には、上履きと下足袋をご持参ください。

(2) 駐車場は、裏面の駐車場をご利用ください。

◇ 駐車台数には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

◇ バスの駐車場も確保いたしますので、事務局までご連絡ください。

(3) 大会資料は、当日受付(茅野市民館)でお渡しします。

(4) 茅野市民館、分科会会場内は禁煙となります。ご協力をお願いします。

分科会構成一覧

No.	テーマ	形態	準備・運営	助言者	No.	司会者	発表者	記録者
①	図書館を使った調べ学習 ～茅野市の実践～	実践発表 ワークショップ	(合同部会) 公共図書館部会 小中学校図書館部会	林 尚江 (茅野市立米沢小学校教頭)	①	柳沢正喜 (村立朝日村図書館長)	奥原真美子 (茅野市子ども読書活動応援センター)	木下和子 (飯田市立上郷図書館)
②	①信州地域史料アーカイブの活用とデジタル化について ②国立国会図書館デジタル化資料送信サービスへの取り組み ③電子書籍READER体験について	事例発表	公共図書館部会	田中直雄 (中野市立図書館長)	②	田中直雄 (中野市立図書館長)	①宮下明彦 (長野県図書館協会) ②矢ヶ崎文 (塩尻市立図書館) ③小林正雄 (原村図書館長)	川島常照 (長野市立長野図書館)
③	絵本で育つ子どもたち	事例発表 グループ討議	(開催地企画) 幼稚園・保育園部会	荒木真理子 (子どもの本・わらべうた研究家)	③	坂本清香 (茅野市立米沢保育園)	茅野市幼保読書活動委員会	鈴木いずみ (茅野市立豊平保育園)
④	司書教諭の仕事と役割 ～読み聞かせに向けて～	レポート発表 ワークショップ	小中学校図書館部会 (司書教諭委員会)	小林洋子 (長野市立城東小学校校長)	④	/	花園直美 (佐久市立野沢中学校) 宮坂文子 (富士見町立富士見小学校) 平中和司 (南木曾町立南木曾中学校) 伊藤ふさ代 (須坂市立日野小学校) 仲條正士 (飯山市立城北中学校) 山崎久子 (長野市立北部中学校)	志津田 みゆき (上田市立塩川小学校)
⑤	司書教諭と学校司書の二人三脚	レポート発表 ワークショップ	小中学校図書館部会 (司書教諭委員会) (学校司書委員会)	水上 勇 (飯綱町立三水第一小学校校長)	⑤	/	夏目裕子 (飯田市立旭ヶ丘中学校) 岡 陽子 (塩尻市立塩尻西中学校) 清水早苗 (松本市立明善小学校) 飯島真美子 (千曲市立八幡小学校) 佐藤幸子 (中野市立南宮中学校)	野沢和恵 (長野町立向小小学校)
⑥	司書の立場からの読書支援	レポート発表 グループ討議 実践発表	小中学校図書館部会 (学校司書委員会)	三澤ゆり (王滝村立王滝小学校教頭)	⑥	/	小林智美 (安曇野市立三郷中学校) 増澤恵子 (上田市立本原小学校) 北原篤美子 (駒ヶ根市立赤穂南小学校) 米山篤美子 (池田町立池田小学校) 竹村里奈子 (長野市立信州新町小学校) 茅野市立図書館	伊藤裕子 (飯田市立川路小学校)
⑦	図書館運営のあり方	レポート発表 研究協議	小中学校図書館部会	林 健司 (県総合教育センター専門主事)	⑦	山崎芳美 (下諏訪町立下諏訪南小学校)	白鳥 剛 (佐久市立中佐都小学校) 丸山真由美 (塩尻市立塩尻中学校)	鎌倉琢磨 (王滝村立王滝小学校)
⑧	読書指導のあり方	レポート発表 研究協議	小中学校図書館部会	吉越秀之 (南信教育事務指導主事)	⑧	高野弘子 (須坂市立豊洲小学校)	吉澤瑞代 (安曇野市立堀金小学校) 岸 枝里 (栄村立栄中学校)	小山堅治 (千曲市立盛代中学校)
⑨	読書指導のあり方	レポート発表 研究協議	小中学校図書館部会	春日直史 (県総合教育センター専門主事)	⑨	森 祐子 (波田町立波田中学校)	北山 篤 (飯綱町立牟礼西小学校) 丸山裕美 (長野市立戸隠中学校)	金子由紀 (野沢温泉村立野沢温泉小学校)
⑩	①歴代高等学校附属中学校の図書館活動 ②「上伊那の高校生が選ぶ“読書大賞”」の取り組み	①実践発表 ②実践発表	高等学校図書館部会	宮沢志志 (明科高等学校)	⑩	宮沢志志 (明科高等学校)	①田中和彦 (長野西高等学校) 青木実花 (歴代高等学校) ②野口 操 (伊那北高校) 松田和子 (上伊那農業高校)	酒寄美佳 (明科高等学校)
⑪	図書館資料の除却・廃棄について	事例報告	大学専門図書館部会	高池良子 (長野女子短期大学図書館)	⑪	高池良子 (長野女子短期大学図書館)	岩井雅史 (信州大学附属図書館医学部図書館)	須田智里 (上田女子短期大学付属図書館)
⑫	これからの学校司書に向けて～ ～法制化に向けて～	講義/実践	開催地計画	本間佐男 (読書の森読りーむinちの副会長)	⑫	一ノ瀬文枝 (岡谷市立長地小学校)	牛山英彦 (文科省学校図書館担当職員調査研究協力者会議委員) 牛山圭吾 (S L A 学校図書館活動推進委員) 大西恵美 (茅野市立米沢小学校学校司書)	伊藤 拓 (茅野市立豊平小学校)
⑬	0歳から100歳までの読書活動	実践/実践	(開催地計画) 読書の森読りーむinちの	中村美恵子 (読書の森読りーむinちの)	⑬	中村美恵子 (読書の森読りーむinちの)	読書の森読りーむinちの 会長 飯田美智子 他	矢崎恵美子 (諏訪市立豊田小学校)

第1分科会：図書館を使った調べ学習 ～茅野市の実践～

助言者：林尚江（茅野市立米沢小学校）

司会者：柳沢正喜（村立朝日村図書館）

発表者：奥原貴美子（茅野市こども読書活動応援センター）

1 発表の概要

(1) 茅野市小中高校生調べ学習コンクール実施の経緯（牛山英彦教育長のメッセージ DVD 含）

- ・茅野市では子どもたちの基礎学力として読書力とともに、“自ら学ぶ力”を養うことが重要であるとして、茅野市こども読書推進計画に調べ学習コンクールの実施を盛り込んでいる。
- ・小中学校長をその学校の学校図書館長に任命し、授業での学校図書館利用促進を図る。子どもたちが新たな問いに気づいたり、答えの根拠が増えたりし、授業が楽しいと思える子が増加。
- ・授業で自分の考えを深めることが目的であり、？【はてな】をそのままにせず調べることができる、“調べるって楽しいな”の延長上に調べ学習コンクールがある。
- ・課題としては、教職員の異動による取り組みの変化、中学校では専科になるために指導が十分でないといったことが挙げられる。

(2) 公共図書館の調べ学習支援

- ・茅野市では、公共図書館・こども読書活動応援センターと学校図書館とが連携、交流をしながら調べ学習を支援。公共図書館では、レファレンスサービスでは他機関と連携して資料提供を行い、夏休み前に調べ学習相談会（H26 は親子向け講座）を実施。
- ・夏休み中には調べにくる子どもたちが多く、十分な資料提供ができないことが課題。

(3) 小中学校の調べ学習指導

- ・調べ学習は探究学習であるため、教師の子どもと一緒に学ぶ姿勢が大事である。子どもたちが感じたつぶやき、疑問を大事にする教師の関わり方、授業が重要。“調べるって楽しい！また調べたい”という子どもたちの思いを大事にしていく。
- ・茅野市は学校体制で組織的に図書館を活用した調べ学習を実施。図書館運営委員会を校務分掌に位置づけるが、会議自体は時間をかけず、長く続けられるものになるように工夫。
- ・今後は保護者や地域の人々をどう巻き込んでいくかが課題。

2 調べ学習のワークショップ

- ・分科会参加者を5～6名の8グループに分け、各グループに提示された1つの大テーマ【粒・野菜・色・道・香・音・木・衣】から、連想される事柄を付箋に書いて列挙するウェビングを行う。
- ・各自列挙された事柄からテーマを絞り、ドーナツ型の円の中心にそのテーマを書き、外周にテーマについて知りたいこと、調べたいこと（6～8つ）を記入、その外側にそれに対する自分の予想をあげるドーナツチャートに取り組む。
- ・自分のテーマや調べたい事柄をはっきりつかむために、インタビューゲームを行う。「あなたのテーマは何ですか？」「調べたいことはどんなことですか？」「それに対する予想は何ですか？」ということ、インタビュー形式で受け答えする。

3 まとめ

- ・小中学校で図書館を使った調べ学習に取り組む場合、年間利用計画を作り、実践記録を残すとよい。
- ・文部科学省ホームページに掲載されている「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について」のなかに、茅野市立米沢小学校の実践内容をまとめたものが載っている。学校司書が校内でどのように動いているかが分かる内容であるので、参考になる。

- 第2分科会 ① 信州地域史料アーカイブスの活用とデジタル化について
② 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスへの取り組み
③ 電子書籍 READER 体験について

司会者 田中重雄(中野市立図書館)

発表者 ①宮下明彦(長野県図書館協会) ②矢ヶ崎文(塩尻市立図書館) ③小林正雄(原村図書館)

1 発表の概要

① 20年前宮下氏が上田図書館館長に就任した際、花月文庫に出会ったが、当時読むことができなかった。現在、県内には古文書が10万点以上ある。これらを誰でも活用できるようにすることが図書館の仕事であるとの思いから、「信州地域史料アーカイブス」を立ち上げた。

ホームページ上の「信州地域史料アーカイブス」を紹介。「弘化四年地震世俗語之種」、「弘化丁未三月二十四日信州大地震山瀬川塞壅水之図」、「検地仕法」、「赤松小三郎母宛書簡」等。キーワード検索も可能。H25年度から3年計画の事業で、原文、翻刻、現代語訳を表示する。現在7点が供用されているが、H27年度末には70~80点を公開する予定。学校の副教材としても活用してほしい。史料のデジタル化には「人(原文を読める学識者、パソコンのエキスパート等)」と「お金(資金)」の組み合わせが必要。資金に関しては図書館振興財団の補助金が活用できる。また、歴史資料検索閲覧システム ADEAC の紹介をした。

② 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて、パワーポイントで説明。(塩尻市ではパソコンをインターネット用4台、データベース用3台提供している。) H25年10月に申請し、H26年1月から供用開始した。利用に当っては利用者カードの確認とパソコンの使用申請が必要。複写に際しても申請書が必要になる。利用状況は9月までで39件、10月は5件であったが、職員のレファレンスにも活用している。先日地域の古地図が見たいとの照会があったが、インターネット公開の中に該当のものがあった。これは自宅のパソコンでも閲覧が可能であることを知らせると大変喜ばれた。全体の1/2以上の複写依頼に当っては、著作権の確認が必要になる。国立国会図書館に照会した事例もある。複写にはトリミングや濃淡の調整等で時間がかかる。今後、利用者への一層の周知と職員のレファレンスへの積極的活用が課題である。

③ LCV 及び SBC で放映された番組ビデオで説明。原村では、電子書籍リーダーを H25 年から導入するなど様々な媒体を活用し読書活動の推進を図っている。現在3台(キンドル1、ソニー2)を用意し、そのうち2台(ソニー)は館外貸出用である。リーダーには、職員が青空文庫などの無料コンテンツ約200冊を登録した。新書判の大きさで、かつ軽くて利用しやすく、好評である。また、コメ粉を使ったホームベーカリー(4台)をレシピ集とセットで貸し出し、自宅で実際にパンを焼いてもらっている。図書館は生涯学習施設であり、知識を得たらそれを実践して、自らの課題を自ら解決できるようになってもらいたいとの思いから行っている。

2 討議の概要

① 原(塩尻市): デジタル化対象の史料はどのように選定したか?

宮下(図書館協会): H25年に古文書等を有する図書館等に意向をアンケート調査したうえで、郷土史の先生の意見を入れて約100点を選定した。そのうち権利関係等で断念せざるを得ないものがあり、最終的には70~80点になる。

宮下: 飯田市(新聞)、箕輪町(町誌)のほか、今後デジタル化の予定はあるか?

田村(諏訪市): 長野日報とその前身の南信日日新聞のデジタル化を進めている。

矢澤(飯田市): 地元紙のうち古いものをデジタル化しているが、予算的に厳しい状況である。

③ 田中(中野市): 新書判サイズを利用とのことだが、大型タブレットの要望はないか?

小林(原村): 大型は費用的に高い。読書に特化し、持ち運びに便利なサイズにしている。

3 まとめ

史料のデジタル化に当っては図書館振興財団の補助金等があるので、これらを活用してほしい。また、「信州地域史料アーカイブス」は各図書館でリンクをはってほしい。

第3分科会 テーマ 『絵本で育つ子どもたち』

助言者 荒木 真理子（こどもの本・わらべうた研究家）

司会者 坂本 清香（米沢保育園）、鈴木 いずみ（豊平保育園）

発表者 前島 敦子（ちの保育園）、守矢 千鶴（小泉保育園）、守屋 静香（幼児教育課）、
小口 愛梨、両角 優乃（聖母幼稚園）

1、発表の概要

○絵本の読み聞かせ

導入：どんぐり（わらべうた） 絵本：「かえるのいえさがし」 わらべうた：おやゆびねむれ

読み手：伊藤 美穂子（湖東保育園） 環境設定：カーテン、ござ

○5つの視点からなる各保育園・幼稚園の取り組みを、パワーポイントを使って発表

視点 ①保育士の学び ②環境 ③自然体験と絵本 ④保護者と進める実践から ⑤保護者へのアンケートより

2、討議の概要

○絵本を楽しむための環境はどうあったらよいか、という話し合いの柱をもとに、7グループに分かれて研究討議や意見交換を行った。

- ・読み手が心を込めて肉声で伝えることが大切。
 - ・集団に読むときと個に読むときは読み方を変えてもよいのではないか。
 - ・保護者や保育士もひざに乗せてスキンシップの時間として読んでいる。
 - ・手遊び→絵本→わらべうたの順だとより引き込まれ、集中してみることができる。
 - ・朝泣いてきた子ども、気持ちを切り替える時間となっている。
 - ・絵本の貸出カードに読んだ人と感想を書いてもらっている。
 - ・絵本を手に取り学べることは大切である。
 - ・自然環境の絵本は実体験が重なり喜びも大きい。
 - ・幼稚園・保育園、小学校、中学校に絵本は置いてある。
 - ・中学生が全校集会で絵本を読む機会が有り、幼い頃に読んだ覚えがある絵本だった。
 - ・保育園に小学生や中学生が絵本を読みに来てくれることがあるが、選ぶ楽しみがあるようだ。
- また、保育園児は、どんな絵本でも小学生や中学生に読んでもらう経験が嬉しくて喜んでいる。

3 助言者の指導、まとめ

- ・茅野市中、幼稚園や保育園、小学校から高校まで、絵本や読書活動を大切に行っている。日々の積み重ねが大切であり、聞く力を育てている。
- ・絵本に入る前のわらべうたや手遊びは、物語の世界に入る良い導入である。また、絵本を読んだ後も。手作りの指人形などでわらべうたをし、絵本の余韻を楽しむのも良い。
- ・乳児への読み語りは、短い内容だと二冊読むこともあるが、同じ絵本を繰り返し読んでみるのが良い。
- ・読み語りは肉声を大切にす。機械音では子どもの心に届かない。子どもの目を見て語りかけ、子どもも耳を傾けることで、人間らしさや理性、思いやりなども育っていく。
- ・図書館は人と人とが言葉を交わし、関わる場所である。
- ・子どもにとって絵本やわらべうたは、言葉をたくさん食べさせる「精神の母乳」である。大人があたたかい生のことばをかけてあげることが大切にしていく。

第4分科会 司書教諭の仕事と役割 ～読み聞かせに向けて～

助言者 小林 洋子（長野市立城東小学校）

発表者 司書教諭委員会

伊藤 ふき代（須坂市立日野小学校）

仲條 正士（飯山市立城北中学校）

花岡 直美（佐久市立野沢中学校）

平中 和司（南木曾町立南木曾中学校）

宮坂 文子（富士見町立富士見小学校）

山崎 久子（長野市立北部中学校）



1 発表の概要

司書教諭委員会の皆さんによるレポート発表の後、ポップ展示用ケースとエコぶくろを作るワークショップを体験した。

(1) 司書教諭委員の皆さんによるレポート発表

① 「冷酒と絵本の読み聞かせはあとでできく」（平中 和司先生）

- ・「ザガズー じんせいってびっくりつづき」クエンティン・ブレイク／作 谷川俊太郎／訳 好学社／出版社 の読み聞かせの実演
- ・子どもが小さい時から「親父の読み聞かせ」を続けてきた。親の読み聞かせは下手でも構わない。読書という形で効果が見え始めたのはだいぶ後になってからである。
- ・読み聞かせをして面白かった本のリストの紹介

② 「司書教諭の仕事と役割 ～読み聞かせに向けて～」（仲條 正士先生）

- ・毎朝10分間の朝読書の時間があるが、担当クラスは読書をするよう注意をする時間の方が多かった。そこで「勝手に読み聞かせ」を始めたところ、徐々に静かになる時間が増えてきた。図書館に行くのが面倒な生徒のために「学級文庫」を設置して準備すると、続きの本を図書館へ借りにいく姿も出てきた。朝の読書の人数も増え、ざわついた時間から落ち着いた時間に変わってきている。

③ 「司書教諭の仕事と役割 ～読み聞かせに向けて～」（宮坂 文子先生）

- ・保護者ボランティアによるおはなしの会を実施して5年目になる。読書旬間中のボランティアによる読み聞かせ、姉妹学年でのペア読書、お話の部屋（先生方による読み聞かせ）、図書委員会による読み聞かせなどの計画・実践と、直接読み聞かせするのではないが、場の提供をする形で司書教諭ができることがある。

④ 「司書教諭の仕事と役割 ～より良い本との出会いを願って～」（伊藤 ふき代先生）

- ・子どもの読書の傾向が一部の本に偏っていることから「読書検定」を企画し取り組んでいる。
- ・各学年の課題図書を決め、コースごとに決まった冊数を読んだ児童に級と賞状をあげている。始めて半年ほどで1級が43名。また、今まで借りられなかった本がベストブックに入ってきている。

(2) ワークショップ

- ・司書教諭委員会の皆さんが用意してくださった材料で、ポップ展示用ケースとエコぶくろ作りを行った。ペットボトルにブックカバーと材料が手に入りやすいものなので、とても参考になった。

2 まとめ（助言者のご指導）

・読み聞かせとは何かということを再考するうえで、発表者の先生方の取り組みはとても参考になった。読み聞かせを実践していくなかで、聞いていない様で聞いている、図書館に行くようになるなどの姿が見られたことは素晴らしい。司書教諭としてなかなかできることではないが、できることから始めてほしい。

- ・読書活動をグランドデザインに盛り込むなど、学校長として取り組んでいかななくてはならないと再確認した。

第5分科会 司書教諭と学校司書の二人三脚

助言者

水上 勇 (飯綱町立三水第一小学校)

発表者

夏目 裕子 (飯田市立旭ヶ丘中学校) (司会) 関 陽子 (塩尻市立塩尻西部中学校)

佐藤 幸子 (中野市立南宮中学校) 清水 早苗 (松本市立明善小学校)

飯島 喜美子 (千曲市立八幡小学校)

1 発表の概要

① 読み聞かせの実践発表 (中学校) 佐藤先生 (学校司書)・関先生 (司書教諭)

現状と課題 中学校3年での読み聞かせは部活が終わっての気のゆるみや受験勉強の夜更かしなどから、居眠りの場となることが多い。いかに授業に集中させるか。

(実際に体験した授業風景を参加者たちを生徒に見たてて再現)

授業：中学3年国語 場所：図書館 中学3年生+国語教諭(司書教諭)+司書

司書がプロジェクターを使用した読み聞かせを行う。

読み聞かせ本「キング牧師のかつよいことば マーティン・ルーサー・キングの生涯」

およそ12分間の読み聞かせ後司書教諭が5つの質問を生徒に投げかける。

成果 生徒は目を輝かせながら集中して話しに聞き入っていた。質問にも的確に答えていた。

② ビブリオバトルの実践発表

(1) パワーポイントにてルール説明→5人の発表者による本の紹介(5分)→挙手によりチャンプ本決定

(2) 参加者全員 3, 4人のグループに分かれ本の紹介(3分)→それぞれのグループごとチャンプ本を選ぶ。→8冊のチャンプ本

ビブリオバトルのねらい： コンセプト「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」

読書の量や幅をひろげ、質や発表能力の向上が期待できる。ゲーム感覚ででき楽しめる。

2 討論の概要： ビブリオバトルの「バトル」「ゲーム」といった言葉を払拭する方法は？

- ・日本語訳→知的書評合戦 バトルという言葉は悪いが子供どうしのコミュニケーションをとoshi、言葉や本の意識の高め合いになるのでは。ビブリオバトルのめざす「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」の実践になる。
- ・中学でもプレゼン力アップが期待できる。小グループでやることで発表の苦手な子にもハードルをさげ対応できる。バトル=楽しさでは

3 まとめ (助言者の指導)

ビブリオバトルは高学年から中学生が力をつけるのに期待ができる。これがねらいとしている「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」のとおり5分の中に人柄が入り、読書をとoshして人を知ることができ一石二鳥の活動では。また、「学校図書館法の改正」により司書の授業活動支援もこれからの課題となってくる。司書教諭との対等な二人三脚を望む。

第6分科会

「司書の立場からの読書支援」

助言者 三澤 ゆり (王滝村立王滝小学校)

司会者 小林 智美 (安曇野市立三郷中学校)

発表者 両角 彰子 (茅野市立金沢小学校会) 竹村 里奈子 (長野市立信州新町小学校)

北原 由美子 (池田町立池田小学校) 米山 篤美 (駒ヶ根市立赤穂南小学校)

1 発表の概要

(両角) 本離れしやすい「9歳の壁」を子どもたちに乗り越えさせるため、茅野市学校司書会では3年がかりでリスト作りを行い、茅野市の3年生全員に手渡すことができた。

(竹村) 小規模校の司書として、係主任の先生と連携しながら、子どもたちの心の居場所になるような環境作りががんばっている。

(北原) 子どもたちにどんな本を手渡すかはとても重要なこと。読み聞かせの場合は、子どもたちの家庭環境、差別的な表現の有無、長年読み継がれているものなどに考慮している。

(米山) 全学年の年間教育計画を作成し、ニーズを常に把握して読み聞かせやブックトーク、特設コーナーの設置などを行っている。

2 討議の概要

A～Gのグループ討議。後で討議内容について発表。

A・大規模校は日常業務だけで手一杯。勤務形態も融通が利かず授業の準備も大変。

そんな中でスキルアップするには、市町村のバックアップが必要になってくる。

・学校によってマニュアルが違っていると大変。統一したマニュアルが必要。

B・茅野市の校長が図書館長を兼ねるとするのは、うらやましい。

・読み聞かせをしていると、昔話を知らないなどギャップを感じる人が多い。

・司書の身分が相変わらず不安定。地位向上にむけてできることをしていかなければ。

C・読んだ本の冊数だけで評価するのはどうかと思うが、冊数を励みに読んでいる子がいるのも確か。本の楽しさを伝えていくことが大切だと痛感。

・親子読書が上手に定着している学校を参考にして、ぜひ取り入れていきたいと思う。

D・公共図書館とのつながりも大切。

・授業への支援は、担任からの要請があるとやりやすい。気楽に話せる関係を作っていく。

E・データベース化はしても、貸出しカードもそのまま残している学校が多い。目に見える物がある方が伸びるからか。

F・地域によって勤務形態も給料も違うのに驚いた。

ビンゴ、しおりデザインコンテスト等、他の分類も手に取るような工夫をしている。

G・利用者が多くなるように、軽めの本を増やす、紹介する機会を増やすなどしている。

・読まない子をどうやって図書館に呼び込むか。

・読みたい本と読ませたい本とのギャップをどう埋めていくか、難しい。

3 まとめ

「読書離れ」とよく言われるが、月別平均読書冊数のグラフを見るとそんなに減ってはいない。読む子はたくさん読むが、読まない子は全く読まないといった二極化が問題。

また、読んではいっても、軽い読み物・内容が幼いといった質の低下は否めない。

電子書籍の出現で、「本は消耗品」という傾向が強くなり、本の寿命も短くなってきている。それにつれて「読む力」が低下している現状がある。学校全体で取り組んでいく必要がある。良書を手渡すことが司書としてとても大切な役割。子どもたちへ適切なときに適切な本をどう渡すのか。その子なりのタイミング、内容を考え、しっかり手渡してほしい。

第7分科会 図書館運営のあり方

助言者 林 健司 司会者 山崎 芳美

発表者 白鳥 剛 丸山 真由美

1 発表の概要

〈白鳥 剛先生 研究テーマ：友と関わりながら自ら学び、豊かな心を育む図書館教育〉

- ① 図書館の環境整備を行うために、子ども達がわかりやすい掲示方法の工夫、中央図書館との連携、テーマブックコーナーの設置を行う。
- ② 読書生活の充実を図るために、読書時間の確保、教科などでの積極的な図書館利用など、全校一丸となって取り組む。
- ③ 発達段階を踏まえて系統的に計画的な利用指導を行う。
- ④ 学校だけでの活動ではなく、地域ボランティアや保護者とも連携し、読書指導を行う。

〈丸山 真由美先生 研究テーマ：図書館運営のあり方〉

- ① 授業での図書館活用がないといった課題の把握。
- ② 課題に基づいた様々な取り組み。(環境面の見直し、読書旬間等の企画の充実化、地域図書館や読み聞かせボランティアとの連携、国語教材と関連した読み聞かせ、朝読書の確保)
- ③ 地域図書館の取り組みから学ぶこと、(本の寺子屋、しゅくだいおうえんたい等)
- ④ 図書館は「学習できる場」にすることが大切であり、「学校情報センター」へ図書館の位置づけを変えるべきである。

2 討議の概要 (A～Fに分かれてのグループ討議)

- A 資料の管理 (テーマ別の展示や新着本コーナーの工夫)、他の図書館との連携 (図書館だより、読書旬間の企画等の情報交換)、ボランティアを使った施設環境づくりについて。
- B 小中連携を意識した指導、中学生が読書できる環境づくり (学級文庫に消耗のお金で本を入れる、目につく場所に本の紹介コーナーを作る等) について。
- C 廃棄本と保存する本の選別、子ども達が本を手に取りやすいような本棚の工夫、司書間の連携 (学校間や地域の図書館同士による本の貸し借り、情報交換) について。
- D 学習に役立つ本の紹介をする学習、公共図書館の利用 (学校の図書館や地域の図書館にとどまらず信大図書館や国立国会図書館を利用することによって学習の幅が広がる) について。
- E 本の選書や本の廃棄の難しさ、安全面を意識した環境作り (高い所に本を置かないことや誰が使ってもわかりやすい本の置き方)、地域のボランティアを使った読み聞かせや地域の民話を扱ったコーナーの設置、司書間の連携、学校全体で取り組む図書館教育について。
- F ちょっとした工夫によって子ども達の本への興味が変わること、司書間や図書館同士の情報交換の重要性について。

3 まとめ (助言者の指導)

- ・学校図書館法が改訂され、学校司書の法的位置づけがされた。学校図書館司書の資質向上が求められることになった。学校司書には読書センター、学習センター、情報センターとしての役割が求められている。そのために、間接的支援、直接的支援、教師指導への支援を行ってほしい。
- ・白鳥先生のレポートは、全体が見渡せる図書館作り、テーマブックコーナー作り、本の国へのパスポートなど多くの工夫がなされていた。教科に関わっている実践がとても参考になった。丸山先生のレポートは多くの実践が書かれていたこと、自身が研修で体験したことが活かしていること、図書館が学習できる場になってきていることがすばらしかった。
- ・学校司書に求められる資質能力として、学校図書館の「運営・管理」と児童生徒に対する「教育」がある。これからは後者が求められる。様々な場所で研修を受けてほしい。
- ・学校図書館の利活用の意義は「確かな学力」と「豊かな心」である。特に後者を育ててほしい。また先生自身が楽しく図書館を運営してほしい。その思いが子ども達につながっていく。

8 分科会 「読書活動のあり方」

助言者 吉越 秀之（南信教育事務所）

司会者 高野 弘子（須坂市立豊洲小学校）

発表者 吉澤 瑞代（安曇野市立堀金小学校） 岸 枝里（栄村立栄中学校）

1. 発表の概要

（堀金小学校）「自分で本を選ぶ・1年生からの図書館利用」

一年生が図書館で本を選ぶために・・・以下のような段階を経て、図書館・本に親しむ姿を育てていった。

- (1) 図書館との出会い・・・4月・入学した一年生の図書館との出会い。
- (2) 絵本の棚から選ぶ・・・5月・平仮名の学習を進めながら、図書館で本を借りる。一年一組の児童がまず手に取った本は、男子は「妖怪」女子は「プリンセス」。「おはなし」を楽しむ本を手にとっていくようにしたい。①3通りの読み聞かせを大事にする。ア) 週の初めの保護者ボランティアによる読み聞かせ、イ) 図書館の時間の司書による読み聞かせ、ウ) 担任の読み聞かせを大事にしていく。
- (3) 91分類からも本を借りる。・・・ひらがなの学習が終わった6月の終わりに、借りてよい棚を広げる・夏休みに向けて、絵本のほかの本にも目を向ける・図書館にはいろいろな本があることを指導していった。

成果としては、子どもの興味関心に沿った図書館の紹介、あえて最初は借りる本を絞ることで、図書館での約束事をしっかりと身に付け、自分が「発達段階に応じた」本を読み進めることができた。また、昨今の電子化に伴って簡略化されつつある読書カードを児童に書かせることで、教師の把握と児童自身による自己のふり返りと自分で考えて本を選ぶことができるようになった。

（栄中学校）「図書館の活用 各教科・生徒会との連携」

中学生ということで長編の本・部活や受験勉強などもあり、平均貸し出し冊数は月2冊ほど。そのため、少しでも機会を設け、読書に親しむ心の育成に、二つの柱を立てて進めている。

- ① 各教科での読書の推進・・・国語科では、本の「帯」の内容を書く活動を通して「読み手に本のおもしろさが伝わるように工夫して、本の帯の文章を書く力」「伝えるために書く必要のある事柄を収集したり選択したりして、本の帯を作る力」の育成を図っていった。
- ② 生徒会の充実・・・読書旬間の企画、おすすめ本の紹介、本に関するアンケート、寄贈本を通しての交流などを実施する中で、本を通しての交流・幅広く本に親しむ活動を行った。

成果としては、生徒の自主的な活動が充実するとともに、「読書の良さを感じる」「作者の視点での読み」ができる生徒が増えてきた。

課題として、司書教諭が常駐できない現状から図書館内の充実が難しいことが挙げられた。廃棄の仕方や中学生の読み聞かせなども考えていきたいということが挙げられた。

2. 討議の概要

※ レポートを聞いて、6グループに分かれてレポートの感想や学校での実践や課題を話し合った。

- A 読み聞かせボランティアの充実について
- B 年間の読書計画を基にした、各学年に適した図書の推進と活用
- C 茅野市の読書の取り組み
- D 読み聞かせの実施方法・小中の違い
- E 生徒会活動の充実
- F 読書旬間の形態や工夫

3 まとめ（助言者の指導から）

両校の実践から、児童・生徒の意識の流れに沿ったシステム作りの中で図書館教育が行われている。そして、地域との連携・教科との連携を工夫することで「読書の質を高めている」ことがわかった。両校の実践・討議を参考に、より一層、子どもたちの不読率の低下に努めていきたい。

第9分科会 読書指導のあり方

助言者 春日直史（県総合教育センター専門主事） 司会者 森 祐子（波田町立波田中学校）
発表者 北山 篤（飯綱町立牟礼西小学校） 丸山裕美、児玉淳子（長野市立戸隠中学校）

1 発表の概要

A) 飯綱町立牟礼西小学校 北山 篤

① 読書活動の位置づけ（日々の様子を紹介）

司書専科が常駐。調べ学習の手伝いや子ども達の話し相手になっている。

学級（3年生）児童の映像（VTR）…とにかく図書館に行く機会を増やす。

→金曜日の2冊貸し出しの日に読書の時間をとる。クラスでミニ図書委員会の活動 等

② 事例（A 児） 語彙が乏しい…嫌なことがあった時に、言葉で表現できない（手が出てしまう）児童であったが、クラスでの活動をきっかけに読み聞かせに興味を示し、文字を読んで考えることの楽しさを感じ始めた。（心の安定）

B) 長野市立戸隠中学校 丸山裕美、児玉淳子

① 研究テーマ「生徒が主体的に読書に取り組み、生涯にわたって読書に楽しむ習慣が根付くための指導は、どうあったらよいか」山間地小規模校としてキャリア教育の視点から

② 読書指導に関わっての工夫

・図書館が遠いので、朝読書用に本を学年に貸し出す。月に1回は図書館で朝読書。自分の好きな場所、居心地のいいところで読める。教科とも関連させられる。担任も一緒に読書。

・読書旬間…年に2回。読書集会←読書ボランティアの活用が15年前より続いている。

・英語の本『大きな木』を和訳してみよう！というような企画も。教科の中で位置づける。

③ 生徒へのアンケート結果から（資料参照）

・本は比較的好きな子ども達 → 某書店の本のおすすめカードや、本の帯の表現を参考にして、おすすめの本を友達に紹介する活動を取り入れた。

2 討議の概要

・最近の子ども達の実態として読解力は低下している。語彙数が貧困。活字離れとは違う…読むことを通して想像力は広がる。毎日の読書が効果的と思う…本に浸りこめる。信大の谷森教授曰く『読書は自己肯定感を高める』 人の一生を支える力となる。

・子ども達同士の読み聞かせが良い。気持ち面、学力面共に。同じ本でも読み聞かせをする人によって楽しさが変わる。人に読むということは自己肯定感にもつながる。

・図書館の場所も重要。まずは本を手取る工夫を。また、図書館が本を読むだけの場ではなくなっている。コミュニケーションの場。読み聞かせをするうちに、心のつながりが感じられる。

・伝説、民話など郷土を感じられる読書が良い。生涯にわたって読書を楽しめる習慣を中学生の時期につけたい。季節を感じられるような読書も良い。

・情報として…ほしのみちおさん。写真を無料で貸してくれる。（HPで事務所を検索できる）

3 まとめ（助言者の先生のご指導を含む）

・司書の先生の活躍が大きい→図書館が息をしている。図書館は本の倉庫ではない。本が生きる図書館（感覚）を作りたい。心がけていく。

・読み聞かせをしたいと思う本、読みたいと思う本には必ず動機がある。その子の持つ知識、思い出…何かがある本に手を伸ばさせた。本に高い低いの質はある。しかし、読書の質に高低はない。何か意味がある。そこを認めていきたい。読書としての学びは、より質の高い本に出会 わせていくこと。

・本を選ぶ動機…クラスの友達に選んでもらうという動機。子ども達に動機を位置づけていく→だからこそ授業が必要。明確に認めつつ、さらに変容させて行くには…授業が勝負。

・たくさん読む＝読解力ではない。様々なジャンルを読むことは効果的。読書の幅を広げる。

① 屋代高等学校附属中学校の図書館活動

県内初の県立の中高一貫校である屋代高校と附属中学校学年が揃った。中学校の開校準備の際に新しい図書館や図書だが、実際は中学棟の中に教室の 1/4 程度の図書室が設置さ書館を使用することになり、中学生用の図書を入れるスペー程度の本の廃棄を行った。中学校の図書室には百科事典や英とした資料を置き、図書館利用端末は設置されていない。図年間は付いたが、今年度は高校用の予算のみである。

実際に中学生が入学して図書館を利用するようになると、何倍にもなった。昼休みには中学生が貸出のために 30~40 人並ぶなど、高校生が利用しづらい状況も見える。一方で中学を中心に図書館を使った授業が増え、中学生が百科事典を使う様子を見て高校生も使うようになったりしている。依頼があったら断わず、多くの授業を受け入れる努力をしている。

青木実花（屋代高校学校司書）・田中和彦（長野西高校学校司書）



は、今年度入学生で全費の増額等を要求された。主には高校の図スを作るため 3000 冊語の副教材等を中心書費も初度調弁の 3貸出冊数は高校生

② 「上伊那の高校生が選ぶ“読書大賞”」の取り組み

野口操（伊那北高校学校司書）・松田和子（上伊那農業高校学校司書）



6 年前から始まったこの“読書大賞”のきっかけは、上伊那の県立高校 8 校の図書館部会の教職員研究会で『読書教育』（辻由美著／みすず書房）の読書会を行ったことだった。高校生が中心となり、地域の書店や図書館も活性化したこういうイベントを上伊那でもやってみたいという思いで、試行錯誤を重ねながら現在まで続けてきたその取り組みを紹介する。

「上伊那の高校生が選ぶ“読書大賞”」は本を媒介にして高校生の「読む」「書く」「聞く」「話す」を鍛え、輪を広げることを目的としている。当番校の図書委員や学校司書が中心となって企画運営を行う。まず、テーマを決めるため各校から候補を出してもらい、決定したテーマに即した推薦図書を出し合う。同時にポスターの募集も開始する。夏休みの始めに行われる第一回生徒研究会で投票により作品とポ

スターを選び、8 月末までに投票用紙等の準備を整える。9 月から各校図書館で投票が始まり、投票してくれた人にはお菓子を渡す。候補作品の POP も随時募集して、カラーコピーを各校に配る。11 月中旬に投票結果と読書大賞推薦文が当番校へ提出される。11 月末頃行われる第二回生徒研究会では 5~7 名のグループで座談会を行い、自分が押す本を PR する。初対面の他校の図書委員ともよく話をしている生徒の姿が印象的である。その後最終投票を行い、大賞作品を決定する。そして、大賞受賞作家へ手紙を送るほか、報告集を作成する。今後は書店や出版社とも協力できたらよいと思うが、取り組みを継続することが重要である。



第1 1分科会 図書館資料の除却・廃棄について

司会者 高池良子（長野女子短期大学図書館） 発表者 岩井雅史（信州大学附属図書館医学部図書館）

1. 発表の概要

配布資料に基づき説明

- 発表者の自己紹介
 - 発表の概要
 - なぜ除却をおこなうか
 - 1.古くなった資料を更新して、蔵書の鮮度、コレクション価値を維持するため
 - 2.除却によって空いた空間を新たに求められる別のサービスに転用するため
 - 何を除却するのか

個人主観は極力排除し、除却の基準を明文化して、それに従って除却する。

信州大学附属図書館では、「除却及び処分に関する要領」と「図書館資料の除却及び処分に関する要領」を定めている。前者において除却が可能となる基準を定め、後者において、その基準に該当するかを判断する指標とする。
 - 除却する資料の代替・補完
 - ILL
他の機関が継続的に所蔵すると思われる資料はILLを利用する。
 - 電子媒体への移行
電子ジャーナルなどの電子媒体への移行。
 - 共同保存／シェアード・プリント
複数の館による共同保存とシェアード・プリントによる保管。
 - 除却にあたっての課題
 - ルーチンワークへの組み込みが出来ていない。
 - 除却対象に関する資料知識・主題知識の問題。
専門の研究資料が多く、除却を判断するためにはそれらの主題についての専門的知識が必要になる。
 - 除却に対する意識の問題。
研究者、専門家にとっての資料価値、必要性とのずれが生じやすい。研究者の必要性と、除却の必要性との間でどのようにバランスを取るかという問題を解決するためにも、選書基準や除却基準を明文化し、実質的に使えるものにする必要があるといえる。
- ### 2. 討議の概要
- この部会は大学専門図書館部会であるが、公共図書館、小学校・中学校の図書館（室）からの多くの参加者があった。館種を問わず除却の問題に対する関心の高さがうかがえた。
図書館種別に各1名司会者の指名により、除却の問題点などを発言していただいた。
 - 信州大学附属図書館における、除却後の資料の処分方法について現在の状況の説明があった。
古紙回収業者や古本屋に売却し、できるだけ現金化している。また、他の学部や研究室で、保管したいという希望があれば移管する。
その他、除却理由で最も多いものはなにか、貴重書と古書の区別がつかない状況や、利用頻度による除却判別など様々な現場の問題点があげられ情報交換があった。
- ### 3. まとめ
- 除却の必要性と保管のバランスを取るため、基準を明文化し実質的に使えるものとする必要がある。今後も、県内の図書館の間で情報交換をすすめていきたい。

第12分科会 「これからの学校司書に求められること～法制化に向けて～」

世話係 高山 和夫（富士見中学校）

司会者 一ノ瀬 文恵（長地小学校）

講義 牛山 英彦（文科省学校図書館担当職員調査研究協力者会議委員・茅野市教育長）

牛山 圭吾（SLA学校図書館活動推進委員・長野県図書館協会会長）

発表者 大西 恵美（米沢小学校）

講義の概要

① 文科省学校図書館担当職員調査研究協力者会議委員・茅野市教育長 牛山 英彦

「これからの学校図書館司書に求められる役割・職務」

～学校図書館担当職員の役割及びそのししつこうじょうのに関する調査研究協力者会議より報告～

学校図書館の利活用の意義 ○確かな学力の育成には、言語活動や探求的な学習の充実が必要。

○同時に、読書活動などを通じて児童生徒の豊かな人間性を形成していくことが求められる ○これらの活動の充実のため、「読書・学習・情報センター」としての学校図書館の整備を進め、これを利活用していくことが重要。」

学校図書館担当職員に求められる役割・職務 ○読書センター機能 ○学習センター機能 ○情報センター機能

これらの役割をふまえ、学校図書館担当職員は、図書館資料の整理、館内閲覧、館外貸し出しなどの児童生徒や職員に対する「間接的支援」や「直接的支援」に加え、各教科等の指導に関する支援など「教育指導への支援」に関する職務を担っていくことが求められる。

学校図書館担当職員に求められる資質能力及びその向上方策 ○学校図書館の「運営・管理」に関する職務に携わるための知識・技能

○児童生徒に対する「教育」に関する職務に携わるための知識・技能

② SLA学校図書館活動推進委員・長野県図書館協会会長 牛山 圭吾

1 学校図書館法とは

2 改正学校図書館法 第6条、附則、付帯決議

3 学校図書館の目的の再認識

(1) PISA学力 (2) 新学習指導要領での新学力観 (3) 国際条約 (4) 法令

(5) 報告

① 「これからの学校図書館の活用のあり方等について」

② 「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと創造を目指して～」

発表の概要

① 米沢小学校 大西 恵美

「米沢小学校の図書館教育の取り組みと学校司書の実践」

○図書館教育推進のための体制作りとして、「図書館運営委員会」が位置づけられており、一度委員会が行われている。」

○研究活動を日常的な活動として継続・定着していく。

○読書活動の推進

○情報活用能力の向上

○学校司書の実践

・授業予定の把握と校内での共有 ・資料の準備 ・資料の提供 ・授業への参加

○課題

・学校内の体制、職員の意識、学習内容の理解・指導のスキル、時間が足りない！